

河内長野市内で働く若者たちの日常を取り材し、このまちで暮らし続ける魅力をお届けする新シリーズが始まります。

第1回は短期大学を卒業後、天野山保育園で保育士として8年目を迎える角明恵さんです。角さんは毎朝、自宅から職場までバイクで約10分の距離を通勤し、早い時は7時前に出勤することもあるそうです。保育園ではすべての年齢の担任を経験し、昨年度には4歳児20人を受け持ちはました。

「散歩、お絵かき、まま」だけでなく、食事や着替えができるよう援助したり、友だちとの関わり方を伝えるなども私たち保育士の大切な役割です」と物静かに語る角さん。立つ・歩くなど成長が分かれやすい乳幼児とは違い、年中ではじっくりと成長に寄り添えるそうで、「4月には落ち着きがなかつた子が1年間で驚くほど成長し嬉しくなります」と、今の仕事のやりがいを話してくれました。

一方で、角さんは人見知りだけでなく、保護者への対応ができるよう援助したり、友だちとの関わり方を伝えるなども私たち保育士の大切な役割です」と物静かに語る角さん。立つ・歩くなど成長が分かれやすい乳幼児とは違い、年中ではじっくりと成長に寄り添えるそうで、「4月には落ち着きがなかつた子が1年間で驚くほど成長し嬉しくなります」と、今の仕事のやりがいを話してくれました。



【取材協力】天野山保育園

天野町 295-1 (☎ 52-5819)

緑に囲まれたアットホームな保育園。田植えや野菜の収穫など自然に親しみながら食育を学べ、普段の遊びでは元気いっぱい体を動かし、のびのびと過ごせます。通園バスも運行し、送迎の負担軽減を図っています。



かわちながの 「 動 ラ フ 」

KAWACHINAGANO HATA-LIFE

河内長野市で働く若者の仕事と暮らし

1

子どもたちの成長がやりがい

天野山保育園の角 明恵さん



休日はのんびりしたり、同僚と山登り

休日は洗濯や掃除をしたり、エレクトーンでディズニーの曲を弾いたりして過ごします。高校時代は陸上部で短距離走とやり投げをしていたので、園の運動会のリレーではちょっと活躍。体を動かすことが大好きなので山登りにも行きます！去年の秋には岩湧山のススキがきれいでした。とはいっても、和歌山の実家が恋しくなると、原付バイクで紀見トンネルを超えて帰ることも。時々、両親が栽培している、はっさくの収穫を手伝えます。

